

第33回日本フィッシュン・トラック研究会実施報告

長谷部 徳子

第33回日本フィッシュン・トラック研究会は、2009年1月9日（金）、10日（土）に、金沢大学自然科学研究科G15室にて開催されました。研究会には下記の36名の出席があり、21件の一般講演と特別講演、および国際FT研究会参加報告がありました。ヴィジョンエンジニアリングさんのご協力を得て、接眼レンズのない実体顕微鏡の展示もありました。また研究会終了後には金沢大学のLA-ICP-MS実験室における分析のデモンストレーションを行いました。懇親会は金沢大学のゲストハウスで開催され、レセプションルームでの立食パーティの後、和室に場所を移し深夜まで議論を続けました。西村進氏が喜寿を迎えたとのことで、お祝いにワインが贈られそのまま懇親会にご提供いただきました。本多照幸氏、田上高広氏からもワインの差し入れをいただきました。不便な場所だったにも関わらず多くの方に御参加いただきました。ここに感謝を申し上げます。

出席者（所属略称）五十音順：

荒田孔明（金沢大）、郁芳随徹（京都大）、伊藤一充（金沢大）、伊藤健太郎（金沢大）、伊藤久敏（NUMO）、稲垣亜矢子（金沢大）、入江寛和（武蔵工大）、岩野英樹（京都FT）、上杉正樹（金沢大）、大石新之介（金沢大）、大林麗子（金沢大）、大平寛人（島根大）、坂田周平（京都大）、末岡茂（京都大）、鈴木大介（金沢大）、田上高広（京都大）、竹内圭史（産総研）、田村明弘（金沢大）、檀原 徹（京都FT）、中西 孝（金沢大）、中山俊彰（京都大）、西川恵（金沢大）、西村進（京都自然史研究所）、長谷部徳子（金沢大）、日南宗一郎（金沢大）、本多照幸（武蔵工大）、シェリフ・マンスール（金沢大）、宮本光（金沢大）、村松敏雄（新潟）、山崎誠子（京都大）、山田国見（サイクル機構東濃）、山田記大（金沢大）、山田浩史（金沢大）、山田隆二（防災科研）、横山明彦（金沢大）、渡邊裕美子（京都大）

1. 総会（1月9日18:00~18:20）の報告

一般会員46名の、1/5以上となる15名の参加者を得て総会が成立した。

1. 研究会の運営体制について

2008年度からの運営体制が確認された。会長・長谷部徳子、委員として会計担当・大平寛人、編集委員会代表・田村明弘、伊藤久敏、岩野英樹、山田国見が認められた。

2. 会員動向及び学生会費について

新会員として、田村明弘（金沢大、2008年より）、山崎誠子（京都大2009年より）が認められた。また学生会員は2007年度の総会で提案され試験運用中であるが、会費を一般会費の半額とすることが提案され認められた。学生会員についてはこれまでのところ、郁芳随徹（京都大）、末岡茂（京都大）、伊藤健太郎（金沢大）から申し出があった。今後も割引会費の宣伝をし、会員の拡大に努めたい。なお本運用に至る際には会則の変更が必要である。

3. 会計報告

会計担当の大平寛人氏より、2006年度および2007年度の会計が報告され承認された。会計監査は伊藤久敏氏であった。2008年度の現状についても紹介があった。北海道大学の図書館より、バックナンバー購入依頼があり、1-11号までを500円、12号以降を1500円で納入することにした。バックナンバーについては在庫がないものもあり（1-4号、および15号が欠品）、場合によっては複製版を印刷することも視野に入れることが提案された。

4. その他

研究会ニュースをメールにて配信していることの紹介があり、会員に知らせたい情報がある場合には会長あてに知らせることが依頼された。アパタイトのトラック長に関する国際組織におけるブラインド試料配布、国際フィッシュントラック会議のことなどが話題としてあがり、今後も意見交換を行うことが確認された。フィッシュントラックニュースレター次号の原稿のメ切がアナウンスされ、編集担当代表は田村明弘氏となった。



研究会開催時の記念撮影